

## 研究主題

地域との連携を視野に入れた安全教育の進め方に関する研究  
－危険予測学習（KYT）を中心とした取組を通して－

### 学級活動（危険予測学習）指導案

宇部市立常盤中学校 教諭 山本 裕之

#### 1 単元名

危険を予測し、安全な生活をしよう 「地域と連携した危険予測学習（KYT）」

#### 2 目標

危険予測学習（KYT）に積極的に取り組み、自ら危険に気付き、考え、安全に行動することができる。

#### 3 対象

宇部市立常盤中学校 1年6組（男子18名、女子17名）

#### 4 単元設定の理由

##### (1) 生徒の実態について

本校は、宇部市の常盤公園近くに位置し、生徒は市内の4つの小学校区（恩田、岬、常盤、琴芝）から入学しているため、校区はかなり広い。近くに高校、高専、大学等もあり、朝夕の交通量が多いことに加え、道幅が狭いなど道路事情が悪いため、学校としては交通安全等の指導には力を注いできたところである。

しかしながら、今年7月に第1学年生徒を対象に実施した安全に関するアンケートでは、「校区内において危険だと感じる場所はあるか」の問いに対し、「ない」、「考えたことがない」と回答した生徒が3分の2以上を占める結果となった。

このように、生徒は日常生活の中で安全に関する意識が高いとは言い難く、危険を予測し回避する能力が十分には身に付いていないのが実態である。

##### (2) 教材について

危険予測学習（KYT）では、イラストや写真を資料として用い、「こういう場面・状況ではこのように事態は展開する」というイメージを具体的に描くトレーニングを行うことで、生徒を自主的・主体的に活動させることができ、自ら危険を予測し、安全に行動する力を育むことができる。

そこで、身近な場所で起こりうる危険を生徒に意識させるために、イラストの教材に加え、身近な地域の写真を用いた危険予測学習（KYT）の教材を作成することとした。身近な地域の写真は、夏休みに生徒・教員・地域住民の三者が参加し実施した地域の危険箇所調査で撮影したものをを用いることとした。また、教材作成に当たっては、「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」の3領域を含むものとし、ふれあい運動推進委員やPTA役員を中心とする保護者からの意見や情報も参考にした。

##### (3) 指導について

危険予測学習（KYT）の指導に当たっては、系統立てて継続的に実施する必要がある。また、KYTシートの設定場面を危険を予測しやすいものから、予測しにくいものへと難易度を上げ、段階的に配置することで、生徒の危険予測・回避能力を向上させる。最初の段階のイラストを用いた危険予測学習（KYT）では、「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」の各領域に絞って学習を進め、生徒が取り組みやすく、効果的に学習できるようにする。さらに、最後の段階の身近な地域の写真を用いた危険予測学習（KYT）では、1枚の写真から「交通安全」、「生活安全」、「災害安全」の3領域を含む学習ができるよう設定する。

また、身近な地域の写真を用いた危険予測学習（KYT）を行う際には、地域住民がゲストティーチャーや生徒のグループにアドバイザーとして参加する。そして、地域住民ならではの指摘により、生徒が「ハッ」と驚くような新たな視点をもてるよう仕組むことにする。具体的には、ゲストティーチャーやアドバイザーが生徒のグループでの話合いに参加し、生徒が、地域住民からの意見や情報を取り入れ、身近に潜む危険に気付き、実生活においてより安全に行動する意識を高めるような展開とする。

## 5 危険予測学習（KYT）の指導計画

| 回   | 設定場面      | 時間  | 学習領域 |      |      | 地域との連携 |
|-----|-----------|-----|------|------|------|--------|
|     |           |     | 生活安全 | 交通安全 | 災害安全 |        |
| 第1回 | 路上（イラスト）  | 15分 |      | ○    |      |        |
| 第2回 | 公園（イラスト）  | 15分 | ○    |      |      |        |
| 第3回 | 河原（イラスト）  | 50分 |      |      | ○    | ◎      |
| 第4回 | 路上（イラスト）  | 15分 | ○    | ○    |      |        |
| 第5回 | 身近な地域（写真） | 50分 | ○    | ○    | ○    | ◎      |

## 6 本時案

### (1) 本時の目標

- 地域住民の話を聴いたり、意見交換をしたりしながら、積極的に学習に取り組むことができる。
- 身近に潜む危険に気づき、自分の身を守る方法を考えることができる。

### (2) 準備物 パソコン、液晶プロジェクター、スクリーン、マジック、ワークシート、短冊

### (3) 展開

| 学習活動・内容  | 教師の支援   | 地域住民とのかかわり   |
|--|---|--|
| <b>1 学習課題を知る 【5分】</b><br>・前時までの学習に使用したKYTシートを振り返る。   | ・前時までの学習を簡単に説明し、危険を予測し、回避することの重要性を振り返らせる。   |  |
| <b>身近に潜む危険を予測し、安全な生活をしよう。</b>  |   |  |
| ・セーフティーリーダーは地域の危険箇所調査や安全マップづくりの感想を発表する。<br><br><b>2 地域の危険箇所から学ぶ 【10分】</b><br>・資料1を見て、危険を予測する。<br>○予想される生徒の反応<br>・カーブを曲がってきた車と接触する。<br>・GTの話を聴く。<br><br>・資料2を見て、危険を予測する。<br>○予想される生徒の反応<br>・前方から車が出てきて、接触する。<br>・前方、後方、車庫から車が出てきて、接触する。 | ・地域住民3人がゲストティーチャー（GT）として、学習に参加することを告げる。<br>・セーフティーリーダーの発表を補う。<br><br>・身近な地域の写真であることを意識できるよう助言する。<br><br>・状況の展開を考えるように助言する。<br>・活発な意見交換と多角的な意見が出るよう支援する。 | ・GTは簡単に自己紹介をする。<br><br>・GTは身近に潜む危険を生徒に注目させる。<br><br>・GTは生徒の発表に対して、気づきを述べる。 |

|  |  |  |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・GTの話を聴く。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険だと感じていなかった場所にも危険が潜んでいることを理解させる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・GTは、地域に住んでいないと気付かないポイントや大人の視点を踏まえて説明する。</li> </ul>   |
| <p><b>3 危険予測学習（KYT）の実施 【30分】</b></p>   |  |  |
| <p style="text-align: center;"><b>資料3を見て、ここで考えられる危険を予測してみよう。</b></p>   |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・班（9グループ）に分かれ、予測できる危険を話し合う。</li> <li>・生徒同士で話し合い、短冊に意見をまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○予想される生徒の反応</p> <p>「交通安全」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道幅が狭く、接触事故がおこりそうだ。</li> <li>・用水路に落ちそうだ。</li> </ul> <p>「生活安全」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暗くなれば、不審者が出そうだ。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーを加えて話し合い、短冊に意見をまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○予想される生徒の反応</p> <p>「災害安全」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨になれば、水があふれて危険だ。</li> </ul> </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に参加を依頼する。</li> <li>・生徒だけで話し合わせる。</li> <li>・各班2枚の短冊を黒板に貼るよう指示する。</li> <li>・同じような内容の短冊をまとめ、予測した危険を整理させる。</li> <li>・予測できる危険は他にはないか、尋ねる。</li> <li>・生徒と地域住民が活発に意見交換できるよう支援する。</li> <li>・「災害安全」に関する意見が出ない場合、写真に手掛かりが含まれていることを告げる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーは班に加わる。</li> <li>・アドバイザーは生徒の意見を聴く。</li> <li>・GTは話し合いが進むように支援する。</li> <li>・アドバイザー及びGTは話し合いが進むように支援する。</li> <li>・GTは生徒が気付かなかった視点を踏まえて、意見を述べる。</li> </ul> |
| <p style="text-align: center;"><b>そのような危険をどうすれば避けることができますか。</b></p>  |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・回避方法を話し合う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で話し合い、短冊に意見をまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の状況をよく見て、行動する</li> <li>・一人で行動しない</li> <li>・不安を感じたときは通らない</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇部市内での災害の様子の写真を見る。</li> <li>・災害はどこでも起こりうることや一瞬で人の命を奪うことに気付く。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予測した危険に対して、それらを回避する方法を考えさせる。</li> <li>・班ごとに考える領域を指定する。</li> <li>・パソコンで危険な状況をシミュレーションし、とるべき行動を考えさせる。</li> <li>・立場が違う人からの意見を取り入れるよう助言する。</li> <li>・写真を提示し、災害発生時と現在の様子を比較させ、考えさせる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・GTは話し合いが進むように支援する。</li> <li>・GTは、地域に住んでいないと気付かないポイントや大人の視点を踏まえて説明する。</li> <li>・GTは、7月21日（山口集中豪雨）の校区の様子を振り返らせる。</li> </ul>                                    |
| <p><b>4 本日のまとめ 【5分】</b></p>  |  |  |
| <p style="text-align: center;"><b>地域の人たちと一緒に授業を行って、感じたことをまとめましょう。</b></p>  |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想をまとめ、発表する。</li> <li>・自己評価を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数人の生徒に発表を促す。</li> <li>・GTに発表してもらう。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・GTは生徒にこれからの生活で望むことや新しい取組の提案等を行う。</li> </ul>  |

## 7 評価（評価規準）

- ・ 地域住民の話を真剣に聴いたり、意見交換したりして、自らが積極的に学習に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
- ・ 提示された資料に基づいて、身近に潜む危険を予測し、回避方法を考えることができる。（思考・判断）
- ・ 友人や地域住民の意見を参考にしながら、自分の考えをまとめることができる。（技能・表現）
- ・ 身近に潜む危険に気づき、自分の身を守る方法を理解する。（知識・理解）